

日中友好のしんぶん

日本と中国

東京版

特定非営利活動法人 東京都日本中国友好協会 ☎03-3295-8241
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-4 日中友好会館内
ホームページ=http://www.jcfa-tyo.net/ E-mail=to-nichu@jcfa-tyo.net

京劇体験や書道交流で 文化の秋を楽しむ

北京市対友協30周年・2011年市民交流訪中団



前門梨園劇場の舞台上で

【京劇の「舞台裏」】
NPO法人東京都日中友好協会は、北京市人民対外友好協会の招請で、10月15日から北京市対友協創立30周年を祝う「2011年市民交流訪中団」を派遣、宇都宮徳一郎会長を総団長に、25人が参加した。

北京到着の15日は、前門の梨園劇場で京劇の「舞台裏」体験。北京京劇院の王玉珍・元院長（北京市対友協・元副会長）がにこやかに一行を出迎えた。陸副院長が

「京劇は、5千年の文化の粋が詰まった「厚い本」。中国人の伝統的哲学が集まっている総合的舞臺芸術です」と紹介した。舞台上で「項羽」の隈取り（メイク）を間近に見学、女性陣は女形のしぐさや柳腰の歩き方などを女優さんの見真似で楽しく体験した。最後に「霸王別姫」の一場面を鑑賞、「京劇が身近になった」と大好評、文化の秋にふさわしい交流となった。

【書と手作り体験】
10月16日午前は、西城区を訪問、4年前に完成し区民の活動拠点となっている日階建ての西城區文化センターの老人大学で交流した。「熱烈歓迎東京都日中友好協市民交流団」と映し出されたスクリーンを前に、館長はじめ西城区の王主任らの歓迎を受けた。

後、書の展示や民族舞踊の発表会を見学、トレーニングマシンやプール、初心者ダンス教室、室内テニス場など充実したプログラムと整った設備の館内を回った。

休憩の後、書道と手づくりの部屋に分かれて交流。書道には、中国書法家協会会員でセンター幹部の書家・楊驥川さんも参加、団員の求めに応じて、「博愛」を揮毫した。日本側は坂田和子副理事長が「寿」、橋本准子常務理事が「龍」と力を込めて書きあげた。

手づくりコーナーは、ビーズを使って葡萄のストラップに挑戦。講師の手元を見ながら真剣に取り組んで完成、出来映えに大満足だった。

10月16日夜、人民大会堂「マカオの間」で祝賀パーティーが開かれた。張賽副会長の進行で開会、李曉強常務副会長が「東京都日中と北京市対友協は、この30年来、風雨同舟、ともに手を携えて歩んできました。今後も新しい分野を切り開き、北京・東京と中日友好事業の強固な発展のために力を合わせて貢献しましょう」と挨拶した。

これを受けて宇都宮会長は、9月に行われた『北京国際民間フォーラム』で都日中の草の根交流を紹介できたことに感謝を述べ、大きな時代の変化のなかで、日本にとって最も近い大国である中国との関係を強化し、さまざまな交流活動をおこなってほしい」と挨拶した。

宇都宮会長から対友協30周年を祝って、江戸切子の花瓶と記念の書を贈呈、北京市対友協からは、都日中の交流が満載の「1981〜2011」と題した三十周年記念写真集が参加者に1冊ずつ贈られた。

12月17日 日中友好交流のつどい 開催

第4回常務執行会議で決定

NPO都日中は10月31日夜、日中友好会館7階会議室で第4回常務執行会議を開き、活動事業について話し合った。

はじめに、2011年市民交流訪中団など前回の報告があった。議題では、文化交流委員会の取組んでいる「日中友好交流のつどい」（12月17日・下欄参照）

朗誦会のように会員外の方に活動を開いて行く必要があると述べ、渡辺文化交流委員長から「胡演奏や歌など具体的な内容の説明があった。実施にあたっては券売に加え協賛金をお願いすることが承認された。

12月17日「つどい」の前に理事会を行い、理事はじめ多くの会員に参加を求めることになった。

このあと経済交流ならびに今後の活動について担当役員から説明があり、それぞれ承認された。

喜び合う姿が見られた。

人民大会堂「マカオの間」

「京劇は、5千年の文化の粋が詰まった「厚い本」。中国人の伝統的哲学が集まっている総合的舞臺芸術です」と紹介した。舞台上で「項羽」の隈取り（メイク）を間近に見学、女性陣は女形のしぐさや柳腰の歩き方などを女優さんの見真似で楽しく体験した。最後に「霸王別姫」の一場面を鑑賞、「京劇が身近になった」と大好評、文化の秋にふさわしい交流となった。

【書と手作り体験】
10月16日午前は、西城区を訪問、4年前に完成し区民の活動拠点となっている日階建ての西城區文化センターの老人大学で交流した。「熱烈歓迎東京都日中友好協市民交流団」と映し出されたスクリーンを前に、館長はじめ西城区の王主任らの歓迎を受けた。

後、書の展示や民族舞踊の発表会を見学、トレーニングマシンやプール、初心者ダンス教室、室内テニス場など充実したプログラムと整った設備の館内を回った。

休憩の後、書道と手づくりの部屋に分かれて交流。書道には、中国書法家協会会員でセンター幹部の書家・楊驥川さんも参加、団員の求めに応じて、「博愛」を揮毫した。日本側は坂田和子副理事長が「寿」、橋本准子常務理事が「龍」と力を込めて書きあげた。

手づくりコーナーは、ビーズを使って葡萄のストラップに挑戦。講師の手元を見ながら真剣に取り組んで完成、出来映えに大満足だった。

宇都宮会長から対友協30周年を祝って、江戸切子の花瓶と記念の書を贈呈、北京市対友協からは、都日中の交流が満載の「1981〜2011」と題した三十周年記念写真集が参加者に1冊ずつ贈られた。

このあと経済交流ならびに今後の活動について担当役員から説明があり、それぞれ承認された。

喜び合う姿が見られた。

人民大会堂「マカオの間」

日中友好交流のつどい



二胡・民族舞踊など多彩な
演目とお楽しみ抽選会(食事付)
日時 12月17日(土)16:30~18:30
会場 中国料理 大福来(JR池袋東口5分)
参加費 前売り3000円(当日3500円)
定員 150人・バイキング方式
チケットお申し込み・お問い合わせは
都日中事務局へ 03-3295-8241

あれ東北地震である。福島原発事故が日本を席巻し、いまだ解決の目処が立っていない。『靖国問題』の著者である高橋哲哉さんが、原発問題には靖国問題に通底する「犠牲のシステム」があると指摘していた▼つまり原発が生み出す利益とは、他者の生活や財産の犠牲、原子力発電所で働く経済的弱者である労働者や、ウラン採掘現場での被曝という犠牲、放射性廃棄物の押し付け問題の発生が不可避という犠牲を想定せずには成り立たないという▼小学生だった私は「神風が必ず吹く」という日本の不敗を信じこまされていた。敵艦に体当たりして靖国に祀られ英霊として讃えられた軍国主義日本の「不敗神話」と同じように、日本および地球上の各地でいわれる「原発の安全神話」は、いつの日か必ず破綻する▼東北地震では、北京や中国各地から、温かい義捐金や激励の友情が届けられた。東京北京の市民交流訪中団では、戦争の歴史が刻まれた盧溝橋を訪れた。国交正常化四十周年にあたる来年、日中の不幸な過去に思いを馳せながら、一衣帯水の同士として助け合い、国家間は戦略的互恵関係を築きながら、草の根のレベルでは相互信頼を深めていきたい。(K)

『杭州西湖景観』と名菜三昧の旅

「杭州西湖景観」は、2011年新たに世界遺産に登録されました。この西湖の美しい景観で心身を癒しながら、「楼外楼」「山外山」「天外天」の有名な老舗レストランで杭州料理の名菜を堪能していただきます。また、魯迅先生の故里・紹興へ立ち寄り、水郷の街を散策し、本場の紹興酒もお楽しみください。

- 【募集要項】
- 訪問期間=2012年1月14日(土)~18日(水)
- 訪問都市=紹興・杭州
- 旅行代金=135,000円(燃油サーチャージ含まず)
- 募集人員=20名(最少催行人員15名)
- 申込締切=2011年12月2日(金)

旅行企画・実施

中国の旅・世界の旅
株式会社 二十世紀旅行
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-4日中友好会館3階
TEL03(5281)2460 FAX03(5281)2465
観光庁長官登録旅行業第709号 JATA正会員
総合旅行業務取扱管理者・増山 章

東京都日中 北京市対友協

2012年度の交流覚書に調印

都日中と北京市人民対外友好協会の2012年度友好交流活動に関する覚書の調印式が10月16日、北京の人民大会堂マカオの間で行われた。

調印に先立つ会見の席で張福森名誉会長は、「両協会の交流は国民間・市民間の感情の好転に重要な役割を果たしている」と述べた。宇都宮徳一郎会長は、「先輩の皆さんが築き上げてきた市民の交流活動を続け、子々孫々世代々発展させる努力をしてまいりたい」と挨拶、3・11東日本大震災に対する中国の迅速な支援に感謝を述べ、「日本が困難をステップとして発展していくためにも両国の関係を強めるよう努力していきたい」と語った。



張福森名誉会長(右)と宇都宮徳一郎会長(左)と調印する宇都宮会長



李曉強常務副会長(右)と宇都宮徳一郎会長。10月16日、人民大会堂マカオの間で

2012年は、日中国交正常化40周年の節目の年にあたることから、覚書には両協会の伝統的な事業に加え、経済交流や新しい分野での特色ある交流を開拓していくことなどがうたわれた。

張賽娜副会長が打ち合せで来日

北京市対友協訪日代表団(団長・張賽娜副会長)が来年の国交正常化40周年の事業打ち合わせで、10月23日から29日の日程で来日した。



10月28日昼、新宿の天津飯店本館で都日中の歓迎会が行われ、宇都宮会長夫妻はじめ西園寺・牧田常務副会長、片岡理事長、経済交流特別委員会メンバー11人が出席した。10月の市民交流で顔を合わせたばかりの役員もいとおおいに話が弾んだ(写真)。

地区協会だより

「孫文と梅屋庄吉」講演会を開催

北区日中では9月20日、本年が辛亥革命100周年に当たることから「孫文と梅屋庄吉を語る」と題し、梅屋の曾孫にあたる小坂文乃氏(日比谷本樓常務)を講師に招き、講演会を開催した。翌日に台風上陸を控えた東京も次第に雲行きが怪しくなり始めたが、会場の北とびあ研修室に70名が参加した。

孫文と梅屋との関係については梅屋本人が「一切口外してはならず」と



遺言したこともあり、最近まで多く知られていなかった。写真や映画事業で財をなした梅屋は孫文の理想に共鳴し、「君は兵を挙げたまえ、我は財を挙げた支援す」との盟約を交わした後、生涯をかけて孫文のみならず、多くの関係者を支援し、しかも何一つ見返りを求めなかったという。明治維新をモデルに西洋列強から中国を守るために清朝を倒し、辛亥革命を遂行したが、「未だ革命ならず」の言葉を残して亡くなった。

(丸山隆司)

阿智村で「満蒙開拓団」を学ぶ

渋谷区日中では9月26日・27日に、飯田市日中が中心になって進めている「満蒙開拓団平和記念館設立準備会」と交流する旅を実施した。26日早朝、22人がバスで渋谷を出发。途中食事をし、記念館建設予定の長野県阿智村に2時ごろ到着。

早速、交流会場へ案内され、小林事務局長から「戦中満蒙開拓団として



一行は滞在中に文京区と大田区を表敬したほか長野を訪問。長野県日中の案内で、県庁表敬、北山市密雲県と友好提携している志賀高原の山ノ内町を訪ねた。夜は長野県日中の歓迎交流会が行われた。交流の深い長野放送と上田女子短期大学を訪問し旧交を温めた。

「子どもや孫に深い印象」北京市対友協との思い出

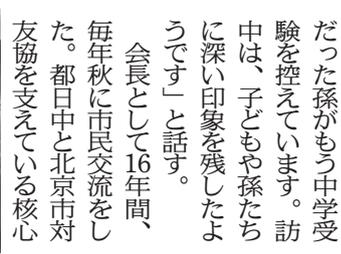
は「信頼」との思いが揺らぐことはない。今年「世代交代」した宇都宮徳一郎会長について、「若くてもおじいさん(宇都宮徳馬元会長)の代からの思いをもって、しっかりとされています」と期待を語った。

最近の日常は「体力に自信が無くなって休んでいることも多く、趣味の絵も次の展覧会へのキャンバスがまだ白いまま」という。しかし北京友協30周年の出席者の名前を耳にして「対友協の老幹部の人たちとゆっくりお会いしたいなあ。役目なしてのんびり北京に行けたらいいですね」と笑顔で語った。

貫洞哲夫名誉会長に聞く

初訪中は、東京都衛生局長のときの1981年。奇しくも北京市人民対外友好協会が誕生した年で、その時生じた王笑一副市長が初代会長になり昨年94歳で死去されるまで両協会の会長としても深い絆ができたという。

都日中の会長就任は95年6月。これ以降、毎年数回訪中した。由里子夫人は「北京市対友協15周年に一緒に行った娘がいまは二児の親。05年に息子一家



来日した張賽娜副会長(右)と貫洞名誉会長夫妻。10月28日、新宿で

「昭和15年8月9日ソ連軍が侵攻してきた。当時、男の人は軍隊に現地に召集され、残っていたのは女と子供でした。着の身のまま数千人が逃避行を続けました。着物はボロボロになり、おんぶしている子供が死ぬ人、泣く子を連れて行けず川に投げ捨てる人、喉が渇き泥水を飲んで病気になる人、それは地獄でした。これは私が『自分の目で見て、体験したことです』という話に、会場は静まり返った。話が終ると参加者は相沢さんのをばに駆け寄り「本当にご苦労様でした」と労ってさらに当時の話を聞いた(写真)。

区民フェスタで古美術無料鑑定

11月5日・6日、代々木公園で開かれた「ふるさと渋谷フェスタ」で、渋谷区日中は中国物産展を行った。恒例の甘栗販売にはたくさんの方が購入に訪れた。今年も辛亥革命百年を記念して、日本へ持ち込まれた中国美術品を中国へ返還するための「中国古美術無料鑑定」を行った。6人が約10点を持ち込んだが、中に明代の壺もあり、持ってきた人も



鑑定結果に驚いていた。毎年、日中のテントに來るのを楽しみにしている人がいて、差し入れがあり交流の場にもなっている。中国語教室や太極拳、書道教室を紹介し、中国旅行の話も関心を持たれた。桑原区長(写真)

浄土宗 梅窓院

住職 中島真成

〒107-0062 東京都港区南青山2丁目26-38
 電話 03 (3404) 8447 (代) FAX 03 (3404) 8107
 梅窓院ホームページ URL=http://www.baisouin.or.jp/

東京都国民年金基金

理事長 貫洞哲夫
 専務理事 中村文雄

〒160-0021
 東京都新宿区歌舞伎町2-44-1
 東京都健康プラザ15階
 TEL 03-5285-8800

